

NEW GOODS EXPRESS NEW GOODS EXPRESS NEW GOODS EXPRESS NEW GOODS EXPRESS NEW

新製品
エクスプレス
Kカー専用の街乗り車高調
BASIC-K
ベーシックケイ
軽専用・車種別パネレート設定の新作ダウンサス
S.TECH K-SPECIAL
エステク・ケイスペシャル

今年3月にティン初となる「Kカー専用車高調」が登場する。今までティンのKカー専用車高調は存在していたが、それはあくまでもコンパクトカー向けに開発された「スーパーコンパクト」、「ベーシックコンパクト」の中に対応モデルを用意していた、という感じ。今度登場する「ベーシックK」は設計段階から完全にKカー向けに作られている。

例えばショックアブソーバー。Kカーの場合、ショック周辺のスペースが非常に狭い車種が多い。そこでシェルケースから開発し直している。新設計の50φの小径シェルケースにより、従来の55φでは対応できなかった車種（例えばJ177ライフなど）にも対応できているのだ。

量販店では常に売れ筋となっているティン車高調。ダウン量は美走行や車検に支障のないレベルに抑えられ、それだけに乗り心地も保たれる。この方向性に必要のない機能ははぶくことでコストを切りつめ、9万4500円（予備、スパール除く）を実現！ 低車高ではなく実用性重視で選ぶ人や、初心者ユーザーにとっては本命の一本になりそうだ。



ベーシックKより落ちる
エステクのK専用モデル

車高調と共に、ダウンサスにもKカー専用モデルが登場する。それがこの、エステク・ケイスペシャル。バナジウムS AENEAS4という高強度素材を使うことにより、従来のよりスプリングの線径を細くし、それによって軽量化とストロークアップを果たした新型ダウンサス。ローダウン量は車種によるが30〜50ミリ付近。車高調のベーシックKが乗り心地重視なのに対し、エステク・ケイスペシャルは「スタイル重視」。な人にも満足できるダウン量が設定されている。

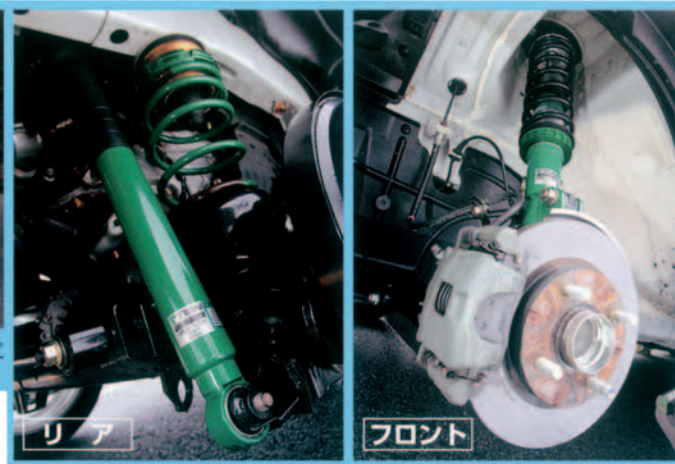
パネレートは純正比何%アップといった形ではなく車種別に設定。美走行テストによって、それぞれ最適なパネレートを与えているという。また、全ての車種で適正なリロードがかかるようにセッティングされているので、ジャッキアップしてパネル遊びがなくなる。大手ハンドルの圧倒的安心感がある。



■対応車種はCT115・CV215・CT115・MC115・MC215・MC225・MH2177コンロ、J44・J81・9・7ライフ、J83ライフダンク、L6025・L9025・L9025・L1505・L1525・L1755ムーヴ、MF215・MF225 MH77コン、D48AW2 フライゴン、HTW エクスポワァン、HE219ライバルの他、オッティ、モコ、ザッツ、ゼスト、i、R2、ステラ、プレオ、カプチーノ、アトトレカゴ、ツニカ、エイキッド、ミラアゲムといったあとまで対応車種を拡大。車高調では設定のないMC277コンロにも対応する。■価格は1万8800円〜2万4150円

ローダウン時に発生しがちな異音は、スプリングの線間密度や取り付け部が原因。これを防止するために、サイレンサーカバーまで標準装備されている（一部車種を除く）。

低車高より、乗り心地重視



ベーシックKは全長調整式ではなく、シッフルなネジ式を採用する車高調。ダウン量は車種によっても変わりますが、20〜30ミリといったところ。最低地上高が約110ミリ付近、というのがベーシックKのターゲットです。

80ミリが車検に通るギリギリなので、少しマージンを残している。明らかにドラスアップ上級者の低車高仕様向きではないが、もともとそういう方向性の車高調ではない。「普通に支障なく街乗りがこなせる車高と乗り心地」がテーマであり、それが実現できる程々のダウン量であれば、全長調整式は必要ないというわけだ。アッパーマウントについても、全ての車種で純正を流用する方式。減衰力も固定式。路面の凹凸を極力なめらかに吸収するセッティングにマトがしほられている。もともとストロークを保護する範囲で、ローダウン量が設定されているので、Kカーに最適化されたショックの性能も手く機能する、という寸法だ。



Kカー専用車高調

車高より実用性で車高調を選ぶならコレ
9万円台で3月登場

BASIC-K
ベーシックケイ

ハイリフトシャフトレス
ムでリも車高調整可能

サイレンサーカバー
異音の発生を防ぐための

スプリング密着による異音発生を防ぐサイレントラバーを、標準装備。静音性にも配慮。

TEIN ティン TEL045-810-5501
<http://www.tein.co.jp/>